

公益社団法人 日本船舶海洋工学会 平成26年度（第119期）事業報告 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

日本船舶海洋工学会は、船舶及び海洋工学に関する学術技芸を考究し、船舶の性能及び安全性向上、並びに、海洋の開発利用及び環境保全を図ることにより、我が国の発展に寄与すると共に、我が国の国民生活の向上を図ることを目的としている。この目的を達成するため、会員を含む広く一般国民を対象とした公益目的事業として、調査研究事業ならびに啓発広報事業を行っている。平成26年度は例年の事業に加えて、「国際化」「学術システムの再構築」「海洋産業への展開」「人材育成システム強化」に向けた事業に注力した。実施された事業について、事業区分ごとに以下に示す。

I 調査研究事業

【1】学術講演会

(1) 春季講演会

平成26年5月26日、27日、仙台国際センターにおいて、平成26年度春季講演会を開催した。国内外から約300名の参加者があり、インターナショナルセッション「Future of Naval Architecture – Globalization, Capacity Building and Environment」(7件)、特別講演(1件)を行うとともに、論文賞受賞記念講演(3件)、3つのオーガナイズド・セッションと若手講演、一般公演(計168件)の活発な発表・討論があり、懇親会(約200名)を開催し、盛会裏に終了した。講演会論文集(CD-ROM)を400部発行した。

(2) 秋季講演会

平成26年11月20日、21日、長崎ブリックホールにおいて、平成26年度秋季講演会を開催した。全国から約380名の参加者があり、特別講演(3件)、日韓ジョイントセッション「GreenShip Technology」(4件)、5つのオーガナイズド・セッション(37件)、一般公演(130件)、ポスターセッション(13件)の活発な発表・討論があり、懇親会(約200名)を開催し、盛会裏に終了した。講演会論文集(CD-ROM)を400部発行した。

(3) 講演会企画委員会

委員数：安川宏紀委員長ほか6名

各支部講演会実行委員会および電子投稿WGとともに、春季・秋季学術講演会の企画・運営を行った。また講演会の国際化、活性化に関する検討を行った。

【2】論文集発行

(1) 論文審査委員会

委員数：柏木正委員長ほか22名

主として国内からの投稿論文に対して論文審査を行い、有益な論文を集めて日本船舶海洋工学会論文集第19号、第20号を発行した。また平成27年3月6日開催の論文審査委員会において日本船舶海洋工学会賞(論文賞4件)および奨励賞4件を選考した。

(2) 日本船舶海洋工学会論文集刊行

表1-1のとおり日本船舶海洋工学会論文集第19号を平成26年6月に、第20号を平成26年12月に刊行した。

表1-1 日本船舶海洋工学会論文集刊行

	論文数	頁数	発行部数
論文集第19号 (平成26年6月)	26	263	1,000
論文集第20号 (平成26年12月)	24	242	1,000
計	50	505	2,000

【3】英文論文集 (Journal of Marine Science and Technology) の発行 (科研費補助事業)

(1) JMST 編集委員会

委員数：梅田直哉委員長ほか46名

世界各国からの120編以上の学術投稿論文に対して論文審査を行ない、有益な論文を45編集めてJMST Vol.19 No.2～Vol.20 No.1を編集した。

(2) JMST 刊行

JMST Vol.19 No.2～Vol.20 No.1の4冊を、表1-2のとおり刊行した。査読の完了後に、印刷待ちとなっている論文数を少なくするため、Vol.19, No.4 から掲載論文数を増加させた。

日本学術振興会の科学研究費補助金を受けて、3件の基幹論文を招聘しオープンアクセス論文とするなど、国際情報発信の強化を行った。

表1-2 英文論文集(JMST)刊行

	論文数	頁数	発行部数
Vol.19 No.2 (平成26年6月)	7	120	550
Vol.19 No.3 (平成26年9月)	9	106	550
Vol.19 No.4 (平成26年12月)	15	179	550
Vol.20 No.1 (平成27年3月)	14	197	550
計	45	602	2,200

【4】調査・研究活動

1. 研究企画委員会

委員数：谷澤克治委員長ほか12名

学会の研究活動全般を統括し、研究活性化戦略を企画・推進することを目的として、研究企画委員会を以下のとおり開催し、下記事項を実施した。

回	期日	場所	出席者数	議事件数
第27回	26.4.21	JR博多シティ	12名	7件
第28回	26.7.17	ニッセイ新大阪ビル	8名	8件
第29回	26.11.7	品川インターシティ	11名	8件

実施事項：

- ・分野研究活動の報告及び検討
- ・新規研究委員会の設置に関する審議(5件)
- ・分野研究企画部会、研究会等の予算に関する審議
- ・性能・運動分野 研究会統合に関する審議
- ・外部資金による調査研究事業の運用に関する内規改定
- ・研究委員会・研究会 評価制度の導入
- ・編集委員会との連携推進

2. 分野研究企画部会

性能・運動分野

委員数：松本光一郎部会長ほか9名

船舶及び海洋構造物等の性能・運動分野についての研究動向や

産業界のニーズを踏まえ、我が国として取り組むべき重点課題の設定と研究活動方針の策定、実施体制の検討を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第25回	26.6.5	伊勢市観光文化会館	10名	9件
第26回	26.10.9	呉市福祉会館	8名	8件
第27回	27.1.22	ヴェルクよこすか	7名	16件

実施事項：

- ・推進性能・運動性能合同研究会の企画、実施
- ・合同研究会統一の計画、審議
- ・重要研究課題の議論、および新研究委員会の企画
- ・シンポジウムの企画・検討
- ・ITTC/JTTC活動情報の共有化

海洋工学・海洋環境分野

委員数：多部田茂委員長ほか計10名

海洋工学および海洋環境分野の研究動向を調査・整理するとともに、今後の研究を企画・推進・支援するため、海洋工学・海洋環境分野研究企画部会を下記のとおり開催した。

委員会の開催状況：

回	期日	場所	出席者数
第28回	26.8.4	カンパーナホテル（五島市）	8名
第29回	26.12.19	I-siteなんば	8名
第30回	27.3.3	横浜国立大学	9名

実施事項：

- ・海洋工学・海洋環境合同研究会の企画、実施
- ・関連研究委員会（P-37、P-44）の活動支援、企画立案
- ・日本海洋工学会等との連携活動
- ・海外の動向等の把握
- ・第25回海洋工学シンポジウムの開催準備

構造・強度、材料・溶接分野

委員数：藤久保昌彦委員長ほか9名

構造・材料研究や共通構造規則に関し、材料・溶接研究会および各支部にある構造研究会の活動状況の情報交換を実施した。また4研究会の合同研究交流会を開催し、情報交換を促進した。

回	期日	場所	出席者数	報告件数
第1回	26.9.22	日本船舶海洋工学会	8名	11件
第2回	26.12.11	大阪研修センター江坂	9名	5件

実施事項：

- ・各研究会における活動（総計22回）の情報交換
- ・構造と材料を横断する研究テーマの探索
- ・他分野との研究連携に関する提案
- ・第1回分野研究交流会の開催（26.12.11 大阪研修センター江坂、出席者51名、報告件数4件）

設計・艦装分野

委員数：荒井誠委員長ほか8名

造船設計部会、船体艦装工作部会、機関艦装部会、電気艦装部会の4部会の連携を図り、研究会及び研究委員会に対する評価基準に関する考え方について審議を行った。

回	期日	場所	出席者数	議事件数
第1回	26.12.17	JMU本社	3名	2件

また、第12回シンポジウム準備委員会を立ち上げ、次回シンポジウム開催に向けての協議を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	26.11.10	JMU本社	6名	3件
第2回	27.10.22	横浜市開港記念会館	5名	4件

工作分野

委員数：青山和浩委員長ほか11名

船殻工作分野に関わる諸問題の解決及び情報交換を目的とし、建造革新研究会の活動進捗確認及び活動方針検討を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	26.5.23	KHI神戸	11名	3件
第2回	26.6.26	新大阪丸ビル会議室	9名	6件
第3回	26.10.31	新大阪丸ビル会議室	8名	6件
第4回	27.2.11	新大阪丸ビル会議室	16名	8件

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	26.5.23	KHI神戸	11名	3件
第2回	26.6.26	新大阪丸ビル会議室	9名	6件
第3回	26.10.31	新大阪丸ビル会議室	8名	6件
第4回	27.2.11	新大阪丸ビル会議室	16名	8件

情報技術分野

委員数：梶原宏之委員長ほか10名

造船産業の情報技術に関する調査研究を目的として以下を実施した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	26.5.30	大島造船所	10名	3件
第2回	26.9.26	九州大学	12名	3件
第3回	26.11.25	東京大学	9名	3件
第4回	27.2.27	三井千葉	9名	4件

実施事項：

- ・プロジェクト研究会（P40）活動に関する討議
- ・次期プロジェクト研究委員会に関する討議

3. プロジェクト研究委員会

今期は10件のプロジェクト研究委員会を実施した。このうち今期に活動を終了した研究委員会は2件（P-37、P-39）、新たに活動を開始した研究委員会は5件（P-42、P-43、P-44、P-45、P-46）である。今期の委員会活動は以下のとおりである。

P-36 船舶の消火設備設計指針改訂研究委員会

委員数：荒井誠委員長ほか5名

昨年度に引き続き、現「船舶消火装置の設計指針」を、最新の規則改正や新技術を反映させたものとする改訂作業を行った。若手・中堅設計者の学習書も兼ねた設計手引書となる設計指針としてまとめることを目指した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	26.5.37	博多 貸会議室	5名	5件
第2回	26.9.4	博多 貸会議室	6名	5件
第3回	26.9.18,19	横浜シンポジア	20名	1件

実施事項：

- ・過去の船舶火災事例の分析
- ・最新規則要求内容の調査
- ・最新技術動向の調査と指針への反映
- ・消火設備設計指針〔改訂版〕の作成と審議

P-37 海中システム技術・海洋環境管理技術に関わる震災・津波・原発事故の復旧・復興支援と防災に関する研究委員会

委員数：加藤直三委員長ほか22名

大震災・津波・原発事故の復旧・復興支援と防災に関する調査検討を行い、海からの視点、特に海中システム技術・海洋環境管理技術の観点から、中長期的な研究開発、救援・復興体制、防災対策、原発事故後の海洋監視体制について、技術的検討を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第7回	26.12.22	大阪府大 I-site なんば	12名	4件

実施事項：

- ・3つの分科会（水中の映像データ・測量データ・環境データを安全に取得できるシステム、画像解析による藻場のモニタリング、海中ロボットによる放射能計測）にて調査と実験を実施
- ・最終報告書の作成

P-39 「居住区設計指針」研究委員会

委員数：荒井誠委員長ほか16名

昨年に続き、船舶居住区の各区画・各装置の設計指針を、相互の関連性も含めて有機的・横断的に纏め直し、特に若手・中堅技術者に総合的な設計指針書の形で提供することを目的として研究活動した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	26.5.37	博多 貸会議室	5名	5件

第2回	26.9.4	博多 貸会議室	6名	5件
第3回	26.9.18, 19	横浜シンポジウム	20名	1件

実施事項：

- ・造船設計部会での内容審議及びメールでの書面審議
- ・関連適用規則調査
- ・居住区設計指針の作成に関する研究活動

P-40 「船舶3D製品情報の共有と高度利用のための標準フォーマットの策定」研究委員会

委員数：濱田邦裕委員長ほか27名

船舶のライフサイクルに関する情報を、3次元製品情報を核としたデータ交換によって、迅速かつ有効に活用できる海事産業内情報交換標準を策定することを目的として活動した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	26.5.30	大島造船所	23名	3件
第2回	26.9.26	九州大学	20名	2件
第3回	27.2.27	三井千葉	22名	3件

実施事項：

- ・造船所内外での3D情報高度利用法の検討
- ・関連技術の調査

P-41 JSQS（機装関係）2015年版改訂研究委員会

委員数：篠田岳思委員長ほか19名

JSQS（機装関係）改訂版の発行を27年度末までに行うことを目標にして以下の4テーマを設定して調査研究を進めた。

- ・JSQS標準の見直し変更
- ・外注品の精度標準の策定検討
- ・PSPC対策
- ・技能教育

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	25.7.3, 4	JMU 舞鶴	20名	4件
第2回	26.11.17, 18	JMU 津	17名	4件
第3回	27.2.12, 13	住重横須賀	23名	4件

P-42 PSPC適用船の施工のための裏焼け防止検討研究委員会

委員数：篠田岳思委員長ほか19名

裏焼け防止実験の準備と、溶接熱の入熱状況を把握するための事前実験について検討した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	26.11.17, 18	JMU 津	17名	4件
第2回	27.2.12, 13	住重横須賀	23名	4件

P-43 BCMを用いた船体流場の大規模CFD解析に関する研究委員会

委員数：土井康明委員長ほか7名

近年航空分野を中心に注目されている直交格子法に基づくBCM（Building Cube Method）を用いた大規模CFD解析を、船体流れに適用し、将来における実用可能性について調査研究を行った。

回	期日	場所	出席者数	議事
第1回	26.5.16	広島大学（メール審議）	8名	3件
第2回	26.6.5	伊勢市観光文化会館	7名	1件
第3回	26.10.10	呉阪急ホテル	7名	3件

P-44 海洋エネルギー施設の影響評価に関する研究委員会

委員数：北澤大輔委員長ほか7名

海洋エネルギー施設の影響評価手法のレビューと、新たな研究開発課題の抽出に向けて、研究委員会の進め方の策定と、既存の影響評価事例のレビューを行った。

- ・研究委員会の進め方の策定
- ・環境影響評価事例のレビュー
- ・周辺状況の情報交換

回	期日	場所	出席者数	議題
第1回	26.9.2	東大生研	7名	4件

第2回	26.12.20	大阪府立大	8名	4件
第3回	27.3.4	東大生研	8名	3件

P-45 「バラスト管装置設計基準の全面改訂」研究委員会

委員数：荒井誠委員長ほか16名

旧来のJSDS-10を昨今の船型及び条約に見合ったものに改訂することを目的に活動を行った。更に近年のトラブル事例を反映するため調査研究した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	26.8.29	三井造船 本社	8名	3件
第2回	26.9.18, 19	横浜シンポジウム	20名	1件
第3回	27.2.6	三井造船 本社	7名	7件
第4回	27.3.5, 6	レオパザール佐世保	23名	1件

実施事項：

- ・設計基準を改定すべき項目及び新規に追加すべき項目の決定
- ・プロジェクト活動のスケジュール、各小委員の作業分担
- ・造船設計部会での内容審議

P-46 「船内交通装置設計指針」研究委員会

委員数：荒井誠委員長ほか16名

旧来のJSDS-21を昨今の船型及び新規則に見合ったものに改訂することを目的に活動を行った。更に危険防止の観点から、事故例の解析、リスク分析といった安全・信頼性の検討を設計指針として追加するため調査研究した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	27.1.16	川崎重工業 坂出	9名	2件

実施事項：

- ・目次案作成
- ・適用規則アンケート実施

4. ストラテジー研究委員会

戦略的課題について研究する2件のストラテジー研究委員会を実施した。このうち今期に活動を終了した研究委員会は1件（S-10）、今期から新たに活動を開始した研究委員会は無い。今期の委員会活動は以下のとおりである。

S-10 調和化船体構造規則（H-CSR）研究委員会

委員数：藤久保昌彦委員長ほか15名

調和化船体構造規則（H-CSR）案について、学術的立場から技術課題を抽出し、合理的規則化のための提言を行うことを目的として、委員会を以下のとおり開催した。最終報告書作成をもって本委員会を終了した。

回	期日	場所	出席者数	報告件数
第9回	26.4.25	JMU 本社	12名	12件

実施事項：

- ・最終報告書の作成および確認
- ・最終報告書の関係機関への送付（26年6月）

S-12 IMO 最低出力ガイドライン策定方針研究委員会

委員数：安川宏紀委員長ほか23名

EEDI規制を受けて主機の小型化が進むと主機出力が小さくなり、その結果として荒天航行時の安全性が確保できない懸念がある。本委員会では、最低出力を規制するガイドラインの最終案の審議に向けて、我が国の運動性能研究の蓄積に基づき、これから実施すべき研究開発の具体的な方向性を策定・提案する事を目的とした。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	26.3.19	日本造船工業会	17名	13件
第2回	26.7.24	日本海事協会	23名	12件
第3回	26.10.30	海上技術安全研究所	19名	12件
第4回	27.1.27	広島大学東京オフィス	21名	9件

実施事項：

- ・最低出力ガイドラインの策定に関する情報交換および討議

・関連シミュレーション計算、水槽試験結果の報告および討議

5. 研究会

船舶海洋工学に係わる情報交換および技術交流を支援・促進するため各種研究会を設置し、研究発表およびシンポジウム開催等の活動を実施した。現在設置の研究会は次のとおりである；推進性能研究会、運動性能研究会、材料・溶接研究会、建造革新研究会、造船設計・生産技術研究会、海洋工学研究会、海洋環境研究会、情報技術研究会。

推進性能研究会および運動性能研究会

会員：土井康明会長ほか123名、松本光一郎会長ほか160名
船舶・海洋構造物の推進・運動性能に関して広く情報交換を行い、この分野の研究交流を促進して、関連分野の発展に寄与することを目的として、以下の合同研究会を実施した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第25回	26.6.5-6	伊勢市観光文化会館	52名	11件
第26回	26.10.9-10	呉市福祉会館	47名	11件
第27回	27.1.22-23	ヴェルクよこすか	53名	11件

実施事項：

下記企画を合同研究会にて開催し、集中的な討議を行った。

- ・特別企画「京および大規模 CFD 解析」
- ・施設見学（海上保安大学校：海上保安シミュレーションセンターおよび海上保安資料館）
- ・その他一般研究発表と討議

材料・溶接研究会

会員：栗飯原周二会長ほか29名
材料・溶接・破壊力学分野について、最新研究の情報交換、討議を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第25回	26.7.18	東京大学山上会館	25名	3件
第26回	26.10.10	東京大学山上会館	19名	3件
第27回	26.12.22	東京大学山上会館	19名	3件
第28回	27.3.6	大阪新丸ビル別館	11名	3件

実施事項：

- ・LNG船の水衝衝突解析、バルクキャリア衝突後残存強度
- ・低温割れ内欠陥の継手強度限界評価、ワイブル応力解析
- ・高圧ガスパイプラインの数値解析、鋼のへき開マイクロ挙動、マルチスケールモデル、シャルピー特性の確率論的検討
- ・溶接学会溶接構造研究委員会との交流（第28回）

建造革新研究会

会員：青山和浩会長ほか38名
船舶建造の船殻分野に関わる諸問題の解決及び情報交換を行うことを目的とし、3つのワーキンググループにより下記の活動を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
総会	26.5.22	KHI 神戸	37名	5件

WG1：

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	26.5.23	KHI 神戸	11名	4件
第2回	26.9.25-26	常石造船	12名	7件
第3回	26.12.8-9	JMU 有明	10名	10件
第4回	27.3.5-6	NK 東京	9名	8件

WG2：

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	26.5.23	KHI 神戸	13名	5件
第2回	26.9.4-5	JMU 舞鶴	14名	7件
第3回	26.12.11-12	MHI 長崎	11名	6件
第4回	27.3.5-6	MES 千葉	10名	5件

WG3：

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	26.5.23	KHI 神戸	12名	6件
第2回	26.9.11-12	MES 玉野	11名	7件

第3回	26.12.11-12	MHI 下関	13名	7件
第4回	27.3.12-13	JMU 呉	11名	7件

実施事項：

- ・JSQS改訂版の素案作成（WG1）
- ・船舶海洋工学シリーズ：造船工作法、生産管理見直し（WG2）
- ・熱変形、歪直しに関する検討（WG3）

造船設計・生産技術研究会

会員：荒井誠会長ほか4部会合わせて101名

船舶・海洋構造物の船体・機関・電装に係わる計画から設計・艤装工作に至るまでの過程における技術的諸問題を考究し、その成果を設計や生産に関する指針・基準として纏め、設計・生産技術の高度化を図ることを目的として活動した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第120回	26.9.18-19	住友重機械マシオン	23名	5件
第121回	27.3.5-6	レオパルホル佐世保	23名	5件

造船設計部会：

第120回	26.9.18-19	住友重機械マシオン	23名	5件
第121回	27.3.5-6	レオパルホル佐世保	23名	5件

船体艤装工作部会：篠田岳思部会長

第26回	26.4.10-11	JMU 舞鶴	17名	5件
第27回	26.7.3-4	サノヤス	19名	5件
第28回	26.11.17-18	JMU 津	17名	5件

機関艤装部会：井上順広部会長

第16回	27.1.19-20	住重横須賀	26名	5件
------	------------	-------	-----	----

電気艤装部会：金子仁部会長

第14回	26.11.13,14	三菱長崎	18名	7件
------	-------------	------	-----	----

海洋工学研究会

会員：永田修一会長ほか103名

当該分野の研究活動活性化と若手研究者の育成を目的として、研究会および部会を以下のとおり開催し、下記事項を実施した。（海洋環境研究会と合同部会）

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第26回	26.8.4-5	長崎県五島	10名	5件
第27回	26.12.19	I-site なんば	16名	6件
第28回	27.3.3	横浜国大	26名	5件

構造部会：

第30回構造部会（26.9.8）、第31回構造部会（27.1.28）を開催した。

実施事項：

- ・第27回研究会において若手研究者・学生の交流会を実施
- ・次期ストラテジー研究委員会「海洋再生可能エネルギー水槽実験方法検討会」の準備
- ・海洋工学シンポジウムに実行委員長として委員が参画

海洋環境研究会

会員：多部田茂 会長ほか計71名

海洋環境の調査・保全・修復、海洋環境変動の評価・予測等に関する研究を推進・支援するため、海洋環境研究会を下記のとおり開催した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第28回	26.8.4-5	五島市	16名	3件
第29回	26.12.19	I-site なんば	17名	5件
第30回	27.3.3	横浜国立大学	22名	4件

実施事項：

- ・OCEANS'14（台北）における海洋環境オーガナイズドセッションの実施
- ・第28回研究会における洋上風力および潮流発電実証実験サイト見学の実施
- ・第29回研究会における若手研究者・学生の交流会の実施
- ・“Handbook of Environmental Management of Marine Ecosystems”の分担執筆
- ・P-37, P-44 への会員の参加による活動支援

- ・新規プロジェクト研究委員会についての検討
- ・沿岸環境関連学会連絡協議会の活動への協力

情報技術研究会

会員：青山和浩会長ほか44名

造船の情報技術に関する調査研究を目的として活動した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第27回	26.5.29-30	大島造船所	23名	2件
第28回	26.9.25-26	九州大学	20名	2件
第29回	27.2.26-27	三井千葉	22名	2件

実施事項：

- ・機関紙「すうちせいぎょ」の発行
- ・情報技術（業界，他業界）に関する話題の提供と討議
- ・ICCAS2015（プレート）への参加，情報提供及び討議

6. 浮体式洋上風力特別検討委員会

浮体式洋上風力発電実用化の観点から，技術的課題について調査を行い，実海域実証試験の支援や今後の実用化に資する検討・提言を行うことを目的とし，設計技術および設計ガイドライン，国際規格，水槽試験法，環境影響評価法に関する検討を行った。

特別検討委員会の幹事会（鈴木英之委員長ほか14名）の下に，3つのWG及び学会横断的な検討委員会を設置して活動した。

(1) 設計技術開発 WG

極値波浪特性の考え方，連成応答解析法，国際規格の調査，浮体式洋上風力の海外例調査を実施した。

回	期日	場所	出席者数	資料数
第1回	26.05.30	日本海事協会	12名	13件
第2回	26.09.18	日本海事協会	9名	10件
第3回	26.12.04	日本海事協会	7名	7件
第4回	27.03.06	日本海事協会	9名	12件

(2) 水槽実験技術 WG

浮体式洋上風力の国内外の水槽試験データを整理し検討した。

回	期日	場所	出席者数	資料数
第1回	26.07.02	日本船舶海洋工学会	9名	11件
第2回	26.09.24	日本船舶海洋工学会	6名	8件
第3回	26.12.17	日本船舶海洋工学会	5名	5件
第4回	27.02.17	日本船舶海洋工学会	6名	6件

(3) 環境影響評価 WG

浮体式洋上風車に特有の環境影響を抽出し，調査事例を取り纏めた。

回	期日	場所	出席者数	資料数
第1回	26.09.02	東大生研	7名	4件
第2回	26.12.20	大阪府立大学	8名	4件
第3回	27.03.04	東大生研	8名	3件

(4) 関連学協会との連携

日本機械学会の浮体式洋上風力に関わる研究会メンバーとの連携をとり，知見の交換を行った。

回	期日	場所	出席者数	資料数
第1回	26.05.30	日本海事協会	8名	4件
第2回	26.09.19	日本海事協会	7名	7件
第3回	26.12.05	東京大学	4名	2件

【5】国際学術協力等

1. 国際セッション

日本船舶海洋工学会 平成26年春季講演会において，5月26日に，”Future of Naval Architecture –Globalization, People and Environment–”と題して国際セッションを開催した。本セッションは，造船業における国際連携の重要性が近年ますます高まってきたことに鑑み，国際的なパートナー達から，研究開

発・人材育成の国際連携戦略，海事安全・環境保全の国際基準の最近の進展，さらに船舶工学の先端技術・未来技術について語ってもらうことを目的とした。参加者は200名弱で，活気ある講演が行われた。

2. 日韓ジョイントセッション

日本船舶海洋工学会 平成26年秋季講演会において，11月20日，長崎ブリックホールでの国際会議場にて，第3回日韓ジョイントセッションを開催した。セッションテーマを「Greenship Technology」とし，日韓2名ずつ，抵抗増加に対する船首形状影響，気泡による摩擦抵抗低減法，コンテナ船の抵抗に関する速度・トリム影響，ディーゼルエンジンの排出制御法の講演を英語で行った。今回の参加者はおよそ100名で，これまでのジョイントセッションに比べて若干の増加があった。

3. Pan Asian Association of Maritime Engineering Societies (PAAMES)

平成26年10月28日～30日に，中国・杭州で開催された6th PAAMES / AMEC 2014 (Advanced Maritime Engineering Conference) に深沢塔一理事と小林頭太郎事務局長を派遣し，ISC (International Standing Committee) および IPC (International Program Committee)に参加して PAAMES / AMEC の運営に関する議論を行うとともに，Best paper award の選考を行った。6th PAAMES にはアジアの17学会の代表が出席し，AMEC2014 の参加者は151名，発表論文数は79件で，そのうち日本からは20名の参加者と8件の論文発表があった。ISC の席上，JASNAOE の管理している PAAMES web site に対して，参加学会から謝意が示された。

4. WECC (World Engineering Conference and Convention)

平成27年11月30日～12月2日に京都で開催される予定の世界工学会議(WECC2015) (実施主体：日本学術会議・日本工学会) に関して，セッション構成と講演者の選定などの準備作業分担を行った。

5. ブラジル造船造機学会 (SOBENA) との協力

平成26年11月10日～12日に，ブラジル・リオデジャネイロで開催されたブラジル造船造機学会 SOBENA (Sociedade Brasileira de Engenharia Naval) の講演会 SOBENA2014 に横田健二副会長と佐藤徹理事を派遣し，JASNAOE セッション ”The Challenge of the Japanese Ship Industry – Strategy to Brazilian Market”で講演を行い，今後の協力体制を確認した。なお，日本からの参加者は11名であった。

6. 国際対応

国際的な諸活動に対応するため下記の委員会を開催した。

(1) JTTC 委員会

委員数：柏木正委員長ほか34名

ITTC (国際試験水槽会議) への対応および船舶性能に関わる調査研究を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第26回	26.6.5	伊勢観光文化会館	18名	12件
第27回	26.10.9	呉市福祉会館	20名	10件
第28回	27.1.22	ヴェルク横須賀	18名	12件

実施事項：

- ・第27期 ITTC 実施内容ならびに進捗状況の確認
- ・第28期 ITTC 委員の選考，第27期 ITTC 総会の報告
- ・第28期 ITTC 各委員会の進捗状況の確認

(2) JSSC 委員会

委員数：藤久保昌彦委員長ほか20名

ISSC (国際船舶海洋構造会議) への対応および船体構造と安全性に関わる調査研究を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第23回	26.5.27	仙台国際センター	13名	5件

実施事項：

・ISSC 2015 技術委員会に関する情報交換

(3) 国際企画委員会 国際基準部会

委員長：深沢塔一

IMO の規則委員会に英国造船協会 RINA から提案された Seating Space Width in Lifeboats の提案と Measures for Onboard Lifting Appliances and Winches のレポートについて、国際基準部会で審議を行い、当学会としての見解を RINA に回答した。

【6】シンポジウム等の開催

1. World NAOE Forum 2014

第4回目となる世界船舶海洋工学フォーラムは、日本船舶海洋工学会と RINA の共催により、Big Data (ビッグデータ) をテーマとして取り上げ、その現状と将来の活用に関して講演およびパネルディスカッションを行った。Keynote Lecture では Driving Business Innovation through Data Analysis と題して大阪ガスの河本薫博士が同時通訳付きの日本語でわかりやすく講演を行った。Session-I, Session-II でビッグデータの活用方法に関するそれぞれ3件の講演を行った後、Session-III でパネルディスカッションを行い、ビッグデータの将来利用への展望を議論した。

期日：平成26年11月28日

場所：大阪府立大学 I-site なんば

参加人数：150名、内外国人20名

2. 第3回海事三学会合同「次世代エコシップシンポジウム」

日本航海学会、日本マリンエンジニアリング学会と合同で、平成23年に続く第3回海事三学会合同シンポジウムを「次世代エコシップ」をテーマとして開催した。エコシップに関連する幅広い分野の講演が行われ、多数の参加者を得て、活発な議論が行われた。

期日：平成27年1月29日

場所：笹川記念会館 (東京)

参加人数：187名、基調講演2件、講演9件

3. 運動性能研究会シンポジウム「実海域における実船性能シンポジウム」

実海域における実船の性能モニタリングに関する、必要性、計測/解析/評価技術の歴史、最新技術、解析・評価例、および将来課題について、各当該分野の専門家が講演し、パネルディスカッションも含めて活発な討議が行われた。

期日：平成27年2月5日～6日

場所：東京海洋大学 越中島キャンパス 越中島会館

参加人数：111名、講演数11件

【7】後援および協賛

関連学協会の講演会・シンポジウム等に73件の協賛と2件の後援を行った。また日本学術会議が主催する講演会等を共催した。

【8】支部活動

1. 東部支部

会員および広く公益に資する目的で、海事関連の最新テーマに関するワークショップを2回開催した。また構造に係わる技術交流、研究活動のため構造研究会を実施した。

(1) 第1回東部支部ワークショップ

「電気推進船：現状とその将来技術動向」

期日：平成26年12月10日

場所：東京大学 武田ホール

参加人数：74名 (内、非会員47名)

講演数：11件、懇親会参加者：34名

(2) 第2回東部支部ワークショップ

「荒天下の操船性」

期日：平成27年1月28日

場所：東京大学生産技術研究所 コンベンションホール

参加人数：56名 (内、非会員9名)

講演数：6件、懇親会参加者：35名

(3) 東部支部構造研究会

回	期日	場所	出席者数	講演数
第36回	26.5.14	港湾空港技術研究所	25名	2件
第37回	26.9.17	JMU	28名	4件
第38回	27.1.20	日本海事協会	26名	4件

2. 関西支部

(1) 特別講演会

題目：パナマ運河拡張後の国際物流動向について

期日：平成27年1月15日

場所：神戸クリスタルタワー、出席者：48名

パナマ運河の現状と拡張後の見通しについて松田琢磨氏 (日本海事センター)による講演があり、今後の課題とともに米国産シェールガス輸送およびニカラグア運河についても言及された。

(2) 関西支部シンポジウム

・第1回シンポジウム(KFR と共催)

題目：氷海分野における技術動向と展望

—北極域の開発に向けて—

期日：平成26年12月12日、出席者：45名

場所：神戸大学統合研究拠点コンベンションホール

氷海域における資源開発の枠組み、気象海象の実際、船舶の航行について等の講演5件、およびパネルディスカッション

・第2回シンポジウム

題目：次世代船舶シンポジウム—省エネへの試み—

期日：平成27年2月27日

場所：大阪府立大学学術交流会館 出席者：79名

最近の船舶の省エネ化技術のトレンド、基礎的な技術解説と実用的な事例の紹介等、講演4件を行った。

(3) KFR (関西船舶海洋流体力学研究会)

第325回例会

期日：平成26年6月16日

場所：新大阪丸ビル別館 出席者：40名

題目：CFDの基礎から応用 (その2:そこが聞きかたかった!)

第326回例会(神大海事科学部と共催)

期日：平成26年8月8日

場所：神戸クリスタルホール 出席者：35名

題目：Global Marine Trend 2030

第327回例会(支部研究運営委員会と共催)

期日：平成26年12月12日

場所：神戸大学統合研究拠点コンベンションホール

出席者：45名

第328回例会

期日：平成27年2月27日

場所：大阪府立大学学術交流会館 出席者：100名

題目：船舶海洋における渦流れに魅せられて—ビルジキールから船底空気循環槽まで—

(4) KSSG (関西船体構造研究会)

第1回

期日：平成26年7月4日

場所：大阪研修センター江坂 出席者：21名

第2回

期日：平成26年9月5日

場所：新大阪丸ビル 出席者：22名

第3回
期日：平成27年1月20日
場所：大阪研修センター江坂 出席者：16名

第4回
期日：平成27年3月23日
場所：新大阪丸ビル 出席者：20名

3. 西部支部

(1) 西部支部構造研究会

回	期日	場所
第28回	26.5.13	Jララシャンズ迎賓館
第29回	26.9.17	パピヨン24
第30回	27.1.20	今治国際ホテル

(2) 西部支部構造研究会講習会

題目：「船体構造設計の歴史について」

期日：平成27年3月11日
場所：ホテル広島ガーデンパレス、参加者：46名
実際の船体構造設計に携わった専門家による講演3件からなる、船体構造設計の歴史に関わる講習会を開催した。

(3) 西部支部性能研究会

「Workshop on Environmental Technologies in Naval Architecture and Ocean Engineering」

船舶海洋分野の学生や企業の若手研究者・技術者に気軽に参加できる国際会議の場を提供するとともに当該分野の環境関連技術に関する情報交換を行った。

期日：平成26年11月14日、15日

場所：広島大学工学部

参加人数：35名、講演：15件

II 啓発・広報事業

【1】能力開発センター

1. 能力開発センター運営委員会

委員数：池田良穂委員長ほか5名

能力開発センターを構成する技術者資格支援委員会、CPD委員会、大学等教育支援委員会の活動を推進した。

海外の造船技術者育成に資する目的で「船舶海洋工学シリーズ」の英語版を出版することとし、第1巻の翻訳に着手した。

2. 技術者資格支援委員会

委員数：八木光委員長ほか1名

技術士補（技術士第1次試験）の資格取得のための講習会を開催した。技術士一次試験の専門科目（機械とシステム、浮体の力学、計測・制御、材料・構造）について4名の講師による講習を行った。

期日：平成26年5月29日～30日

場所：学会会議室

後援：日本マリンエンジニアリング学会、日本造船工業会

参加人数：7名

3. CPD委員会

委員数：新宅英司委員長ほか4名

継続的能力開発（CPD）ポイント蓄積システムの運用を行い、運営効率を改善するためシステムの見直しを行った。またCPDポイント制度の普及に努めた。

4. 大学等教育支援委員会

委員数：馬場信弘委員長ほか6名

日本技術者教育認定機構（JABEE）の動きに対応し、船舶海洋系大学の教育プログラムの、JABEE認定に向けた支援を行った。

【2】海洋教育推進活動

1. 海洋教育推進委員会

委員数：小林正典委員長ほか53名

(1) 委員会の開催

運営委員会、WG戦略会議、支部委員会、フォーラム実行委員会を下記のとおり開催し、以下について審議した。

- ・海洋教育推進委員会の運営方針
- ・海洋教育フォーラム、海洋教育セミナーの計画・実施

期日	委員会名	出席者数
26.4.11	第16回運営委員会	6
26.4.11	第5回WG戦略会議	13
26.7.4	第17回運営委員会	5
26.7.4	第6回WG戦略会議	9

26.7.4	第6回全体委員会	15
26.9.1	第18回運営委員会	5
26.9.1	第7回WG戦略会議	11
26.10.22	第19回運営委員会	4
26.10.22	第8回WG戦略会議	9
26.12.25	第20回運営委員会	3
26.12.25	第9回WG戦略会議	12
27.3.5	第21回運営委員会	5
27.3.5	第10回WG戦略会議	11

(2) 海洋教育フォーラムと海洋教育セミナーの開催

- ・第9回東支部海洋教育セミナー

期日：平成26年7月4日

場所：東京海洋大学品川キャンパス

プログラム：講演6件 参加者数：15名

- ・第6回西支部海洋教育セミナー

「すいすい水力推進船を作ってみよう！」

期日：平成26年10月18日

場所：バンドー神戸青少年科学館地下ホール

プログラム：講義、模型船作成 参加者数：45名

- ・第6回西支部海洋教育セミナー

「造船所の公益活動」

期日：平成27年3月13日

場所：広島オフィスセンター

プログラム：講演6件 参加者数：10名

- ・第9回海洋教育フォーラム

私たちの海～防災とまちづくり～

期日：平成26年11月1日

場所：東北工業大学

プログラム：講演4件 参加者数：84名

- ・第10回海洋教育フォーラム

「瀬戸内海の豊かな自然の営みと恩恵を継続するために」～瀬戸内海の環境と津波について学ぶ～

期日：平成26年11月29日

場所：ひろしまハイビル21

プログラム：講演4件 参加者数：68名

- ・第11回海洋教育フォーラム

私達の海とめぐみ

期日：平成26年12月13日

場所：長崎歴史文化博物館

プログラム：講演6件 参加者数：16名

- ・ 第12回海洋教育フォーラム
「駿河湾から海を考える」
期日：平成26年12月20日
場所：静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
プログラム：講演6件 参加者数：30名
- ・ 第13回海洋教育フォーラム
これからの海洋教育 ―東日本大震災に学ぶ―
期日：平成27年2月7日
場所：記念館「三笠」講堂
プログラム：講演5件 参加者数：116名
- ・ 第14回海洋教育フォーラム 産み出せ！海のエネルギー
―最先端の科学技術と教育の実践―
期日：平成27年2月22日
場所：大阪科学技術センター
プログラム：講演4件 参加者数：20名

(3) 海洋教育に関する広報活動

- ・ 海洋教育に関するイベントの紹介記事を学会誌に掲載した。
- ・ 海洋教育イベント情報をホームページに掲載した。
- ・ 「海の不思議箱」のコンテンツを追加・充実した。

(4) 海洋教育に関する企画

- ・ 海洋教育に関する映像資料、およびその作成経費を調査するとともに、DVD資料を入手した。
- ・ 国立科学博物館の2014夏休みサイエンススクエアにおいて、海と船の工作ひろば「すいすい推力船を作ってみよう！」を実施した。
- ・ 三井造船の協力を得て、造船所見学会を実施した。
- ・ 教諭および教諭志望の学生を対象として、海洋教育夏季研修「海を教えるためのスキルと教材研究」を実施した。

2. 青少年啓蒙活動

(1) 東部支部おもしろ船教室

期日：平成26年8月8日
場所：横浜港，横浜シンポジア
参加者数：93名
プログラム：港内遊覧船マリーンシャトル（764GT）による横浜港内見学，実験を主体とした講演

(2) 西部支部夏休みおもしろ船教室

期日：平成26年8月23日
場所：長崎総合科学大学
参加者数：60名
プログラム：プレジャーボート操船体験，船のペーパークラフト教室，船舶海洋試験水槽見学，3D塗装シミュレータ体験

(3) その他啓蒙活動

- そのほか下記の活動を共催・後援した。
- ・ 大阪大学船舶海洋試験水槽一般公開(26.7.21)
 - ・ 海技大学校「海技丸」体験航海と講演会 (26.7.22, 7.27)
 - ・ 神戸大学体験型海洋セミナー「海と船に親しむ！体験航海，深江丸」(26.8.23-24)
 - ・ '14水中ロボットコンベンション in JAMSTEC (26.8.30-8.31)
 - ・ Techno-Ocean2014「水中ロボット競技会」(26.10.4)

3. 一般向け講演会の開催

表2-1のとおり造船系8大学にて小学生から高校生を含む一般向けの講演会等を開催した。本事業は日本造船工業会より補助金を受けた。

4. 夏の学校

2泊3日または1泊2日で、性能・運動分野および構造強度・

表2-1 一般向け講演会

大学	開催日/場所	参加者
東京大学	平成26年11月23日 東京夢の島マリーナ	50
東京海洋大学	平成26年7月21日 越中島キャンパス 平成26年7月25日 越中島キャンパス 平成26年7月28日 江東区	120 100 60
横浜国立大学	平成26年7月21日 横浜国立大学キャンパス 平成26年8月23日 横浜国立大学キャンパス	70 80
大阪大学	平成27年2月1日 神戸国際会議場	60
大阪府立大学	平成26年11月12日 和歌山県立向陽高校	300
広島大学	平成26年6月23日 高松第一高校 平成26年8月2日 山口高校・徳山高校・岩国高校	40 120
九州大学	平成26年5月18日 伊都キャンパス	331
長崎総合科学大学	平成26年4月29日 長崎水辺の森公園	155

材料溶接分野の専門家に講義を依頼し、若手技術者の専門教育の充実、および交流を促進する「夏の学校」を以下のように開催した。

(1) 性能・運動分野

期日：平成26年9月21日～9月23日
場所：大阪府立青少年海洋センター（大阪府）
参加者数：36名
プログラム：特別講義3件，基礎講義3件

(2) 構造強度・材料溶接分野

期日：平成26年9月19～20日
場所：倉敷シーサイドホテル（岡山県）
参加者数：30名
プログラム：講義5件

【3】 会誌発行

会員および広く一般に海事関連の最新情報を提供し、また学会活動を広報・周知するため、学会誌「KANRIN」を隔月に発行した。

(1) 学会誌編集委員会

委員数：白木原浩委員長ほか58名
・ 会誌発行の全体計画および調整のため下記の幹事会を開催した。

回	期日	場所	出席者数
第37回	26.6.3	神戸（海友館）	12
第38回	26.9.23,24	九州大学（西新プラザ）	11
第39回	26.12.22	日本船舶海洋工学会	17
第40回	27.3.14	新大阪（丸ビル）	8

・ 特集等の企画・編集のため、各支部単位の編集委員会を随時開催した。

・ 会誌「KANRIN」第54号～59号を各支部編集委員会の分担により編集し、発行した。

・ 研究会企画委員会との連携で連載解説記事（初回はCFD）及び推薦図書紹介連載（分野別）を企画した。平成27年度に掲載を開始予定。

・創刊10周年企画として10年間の振り返り、今後の展望などについて第61号(7月号)に掲載の予定とし、企画準備を実施した。

(2) 刊行

日本船舶海洋工学会誌「KANRIN」第54号から59号までの6冊を表2-2のとおり刊行し会員に配布した。

表2-2 日本船舶海洋工学会誌「KANRIN」発行

会誌・号・発行月	頁数	発行部数
KANRIN 第54号(平成26年5月)	58	5,100
KANRIN 第55号(平成26年7月)	126	5,100
KANRIN 第56号(平成26年9月)	70	5,100
KANRIN 第57号(平成26年11月)	78	5,100
KANRIN 第58号(平成27年1月)	77	5,100
KANRIN 第59号(平成27年3月)	70	5,100
計	479	30,600

【4】電子情報サービス

会員をはじめとする国民一般への広報・情報発信として、学会ホームページの管理運用を行った。また会員の利便性向上の一環として、会員サイトおよび英文ページの情報の充実を図るとともに、ホームページ活性化のために、フォトギャラリーの企画を立案した。

(1) 情報管理委員会

委員数：日野孝則委員長ほか3名

下記のとおり4回の情報管理委員会を開催し、主としてホームページの運用に関する審議を行った。

回	期日	場所	出席者数
第1回	26.6.25	日本船舶海洋工学会	7
第2回	26.9.9	日本船舶海洋工学会	8
第3回	26.12.12	日本船舶海洋工学会	7
第4回	27.3.17	日本船舶海洋工学会	7

(2) 主な実施事項

- ・日本船舶海洋工学会ホームページの企画・管理・運用
- ・メールニュースNo.184～213の発行
- ・会員サイトのコンテンツの追加・充実
- ・英文ページのコンテンツ充実
- ・フォトギャラリーの企画

【5】褒賞

日本船舶海洋工学会細則第33条から36条にもとづき、学会賞、船舶海洋技術賞等を授与した。

- 1) 平成26年度定時総会において、表2-3のとおり日本船舶海洋工学会賞・日本造船工業会賞・日本海事協会賞を授与した。
- 2) 平成26年度定時総会において、表2-4のとおり第38回船舶海洋技術賞が内藤 林君に授与された。
- 3) 平成26年度定時総会において、表2-5のとおり日本船舶海洋工学会奨励賞(乾賞)を授与した。
- 4) 平成26年度定時総会において、表2-6のとおり日本船舶海洋工学会賞(著書・開発等)を授与した。
- 5) 船舶海洋系大学および大学院(修士課程)の卒業者の中から成績優秀な者に表2-7のとおり、奨学褒賞を授与した。
- 6) 商船高等専門学校等の卒業者の中から成績優秀な者に表2-8のとおり、奨学褒賞を授与した。
- 7) 工業高等学校の卒業者の中から成績優秀な者に表2-9のとおり、奨学褒賞を授与した。

【6】シップ・オブ・ザ・イヤー授賞

毎年日本で建造された船舶・海洋構造物の中から、技術的・

表2-3 論文賞

<p>日本船舶海洋工学会賞 日本造船工業会賞 論文名：バーチャルモアリング用円盤型 水中グライダーの開発(その1～3) 受賞者：中村 昌彦(九州大学)</p>
<p>日本船舶海洋工学会賞 日本造船工業会賞 論文名：レーザスキャナによる曲がり外板の 工作精度評価システムの研究開発(第1,2報) 受賞者：中垣 憲人(SHI-ME), 菅原 晃佳(〃), 稗方 和夫(東京大学)</p>
<p>日本船舶海洋工学会賞 日本海事協会賞 論文名：Relation between the lifting surface theory and the lifting line theory in the design of an optimum screw propeller 受賞者：小山 鴻一(海上技術安全研究所)</p>
<p>日本船舶海洋工学会賞 日本海事協会賞 論文名：Parametric roll mitigation using rudder control 受賞者：Carl-Johan Söder (Wallenius Marine), Anders Rosén (KTH)</p>

表2-4 船舶海洋技術賞

受賞者：内藤 林(大阪大学名誉教授)

表2-5 奨励賞(乾賞)

<p>論文名：高精度風況MAP作成に向けた大気モデル手法の検討 受賞者：西田 智哉(東京大学)</p>
<p>論文名：トポロジー最適化と固有振動数解析に基づく 非破壊検査での損傷同定手法 受賞者：西津 卓史(広島大学)</p>

表2-6 著書・開発・発明賞

<p>日本船舶海洋工学会賞 著書：「モデルベースモニタリングと統計的制御」 受賞者：大津 皓平(東京海洋大学)</p>
<p>日本船舶海洋工学会賞 題名：「船用ディーゼル主機関の排熱回収による 発電・推進アシストシステムの開発」 受賞者：川越 美一(商船三井), 米田 直史(名村造船所) 堀 俊明(三菱重工船用機械エンジン)</p>

芸術的・社会的に優れた作品を選考して表彰するシップ・オブ・ザ・イヤーの24回目となるシップ・オブ・ザ・イヤー2013を選定した。

平成26年6月5日、応募作品の発表会と選考会が実施され、選考委員会において下記作品が各賞に選定された。平成26年7月30日に開催された海事三学会合同表彰式(海運クラブ)において、受賞作品の表彰式を行った。

- ・ シップ・オブ・ザ・イヤー2013 : RAGA
- ・ 大型貨物船部門 : SHOYOH(翔遥)
- ・ 漁船・作業線部門 : 第五十一開洋丸
- ・ 特殊船部門 : 新青丸

表 2-7 奨学褒賞 (大学, 大学校)

学校名, 学科名	受賞者
東京大学 工学部システム創成学科 大学院工学系研究科システム創成学専攻 大学院新領域創成科学研究科	北 祐樹 布 一馬 Tsai Chin-Leong
横浜国立大学 理工学部建築都市・環境系学科 大学院工学府システム統合工学専攻	安田 茜 河島 園子
東京海洋大学 海洋工学部海事システム工学科 海洋工学部海洋電子機械工学科 海洋工学部流通情報工学科 海洋科学技術研究科海運ロジスティクス専攻	江藤 優介 小柳 摩純 木下 慶太郎 柴尾 陵
神戸大学 海事科学部海事技術マネジメント学科 海事科学部海洋ロジスティクス科学科 海事科学部マリンエンジニアリング学科 海事科学研究科	狹間 啓太 大仲 世修 田中 伶央也 織田 哲也
大阪大学工学部 地球総合工学科船舶海洋工学科目 大学院工学研究科地球総合工学専攻	三木 真理子 井上 恵太
大阪府立大学工学部 海洋システム工学科 大学院工学研究科航空宇宙海洋系専攻	洲河 杏平 梅田 隼
東海大学海洋学部 船舶海洋工学科	佐藤 友裕
広島大学工学部 第四類輸送機器環境工学プログラム 大学院工学研究科輸送・環境システム専攻	山崎 勇介 永岡 史治崇
九州大学工学部地球環境工学科 船舶海洋システム工学コース 大学院工学府都市環境システム工学専攻 総合理工学府大気海洋環境システム専攻	福元 佑輔 岩永 俊哉 西森 健人
長崎総合科学大学 工学部船舶工学科 大学院工学研究科生産技術学専攻	瀧田 伸雄 岩下 遼
海上保安大学校 本科第一群 本科第二群	室谷 美佐 小口 瞳史
海技大学校 海上技術コース (航海) 海上技術コース (機関)	高橋 拓也 加藤 宇宙

【7】広報活動

学会活動を広く周知するための広報宣伝活動と、入会者の増加を図る目的でパンフレットの作成に着手した。

【8】海洋開発人材育成構想委員会

海洋開発に係わる人材育成を担い、海洋エンジニアリング教育の拠点となる機構・センター等の仕組みを、全国に設置することを目指して検討を行った。

【9】支部活動

1. 東部支部

(1) 若手研修・意見交換会

若手世代の親睦を深め、情報共有や問題意識の啓発のため若手研修会を開催した。東京大学大学院経済学研究科の大橋弘氏の講演“海事クラスター：「強み」と「弱み」を考える”と議論を通して、我が国の海事産業を考える機会を得た。また海上技術安全研究所の施設見学を行った。

期日：平成 27 年 3 月 26 日

場所：海上技術安全研究所

表 2-8 奨学褒賞 (商船高等専門学校)

学校名	受賞者
弓削商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	赤瀬 真由 溝越 快人
大島商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	家永 寛基 平岡 大樹
富山高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	土屋 秀生 青山 達人
鳥羽商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	宮寄 芽生 廣瀬 大和
広島商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	江種 大宗 門本 賢治

表 2-9 奨学褒賞 (高等学校)

学校名	受賞者
山口県立下関中央工業高等学校	倉本 哲治
高知県立須崎工業高等学校	田村 朋千
長崎県立長崎工業高等学校	橋本 晋作

参加人数：23 名

(2) 海事産業へのお誘い

海事産業へ興味を持つ全ての大学生・大学院生を対象とした海事産業へのお誘いを開催した。海事産業全般に関する基調講演に加え、参加団体による個別説明会、概要説明パネルの展示を行い、海事産業の魅力を周知することに努めた。

期日：平成 26 年 12 月 6 日

場所：東京海洋大学 楽水会館

参加人数：55 名、参加団体数：20 団体

(3) 東部支部情報管理委員会

会員等に対する情報提供として、支部ホームページの管理、メールニュースの発行を行った。

2. 関西支部

(1) 若手技術者研修会

委員数：村川会長以下 8 名

第 1 回見学および講演

期日：平成 26 年 6 月 6 日、出席者：5 名

場所：大阪大学船舶試験水槽および接合科学研究所

第 2 回見学

期日：平成 26 年 9 月 5 日、出席者：5 名

場所：今治造船丸亀事業本部・川崎重工工業坂出工場

第 3 回見学

期日：平成 26 年 10 月 27 日、出席者：5 名

場所：サノヤス造船水島製造所・三井造船玉野工場

第 4 回見学

期日：平成 26 年 11 月 10 日、出席者：5 名

場所：JMU 津事業所

第 5 回見学

期日：平成 26 年 12 月 15 日、出席者：5 名

場所：新日鐵住金広畑製鉄所

第 6 回見学

期日：平成 27 年 2 月 6 日、出席者：5 名

場所：キャタピラー・ジャパン明石事業所

(2) 造船資料保存委員会

委員数：内藤委員長以下 28 名

- 第1回(平成26年7月25日)
場所:神戸大学海事科学部 出席者:16名
- 第2回(平成27年1月23日)
場所:神戸大学海事科学部 出席者:20名
- (3) 関西シニア海事研究会
総会(平成26年7月18日)
場所:神戸クリスタルホール 出席者:38名
- (4) 支部長賞
支部長賞1件を,神戸大学海事博物館「海事関連歴史資料の収集・保全と海事科学に関する啓蒙活動」に授与した。
- (5) セミナー・講習会
・海事産業説明会
期日:平成26年12月13日
場所:大阪産業創造館
日本の海運産業,造船産業の動向とビジョンに関する講演2件。参加者:117名 参加団体:22団体
・見学会
期日:平成27年3月26日,参加者:11名
場所:大川クルーズと毛馬閘門コントロールセンター
- (6) 海岸清掃
期日:平成26年10月5日,参加者:10名
場所:神戸市須磨海岸清掃および須磨海浜水族園見学
- (7) 学生会員募集
学生会員勧誘のための学会紹介パンフレットを製作し,学生会員の拡大を図った。

3. 西部支部

- (1) 西部支部ワークショップの開催
「船舶設計における環境性能に関するワークショップ」
EEDI, NOx 3次規制, SOx 規制, 騒音規制といった環境性能に関する規制の動向を確認し,これらが今後,設計に与える影響について意見交換することを目的として開催
期日:平成26年10月21日
場所:九州大学西新プラザ
参加人数:42名,講演:4件
- (2) 船舶海洋科学技術啓発広報活動奨励賞
第5回西部支部運営委員会にて投票により船舶海洋科学技術啓発広報活動奨励賞を2件選出した。
受賞者:脇山祐介(長崎総合科学大学) 作野裕司(広島大学)
- (3) 広報編集委員会
- | 回 | 期日 | 場所 |
|------|---------|-------------|
| 第23回 | 26.5.30 | 九州大学創造パビリオン |
| 第24回 | 26.10.6 | 九州大学創造パビリオン |
| 第25回 | 27.2.3 | 九州大学創造パビリオン |
- このほか随時,電子メールにより学会誌の企画・編集に関わる審議を行った。
- (4) 電子情報委員会
電子メールにより関連課題の審議を行った。
- (5) 広報活動など
メールマガジン第53号〜第58号を配信した。

III 事務報告

【1】会合

1. 定時総会

平成26年度(第119期)日本船舶海洋工学会定時総会を出席者68名(内書面による議決権行使44名,定足数43名)のもとに下記のとおり開催し,平成25年度(第118期)事業報告(報告事項)および収支決算報告を審議して可決した。

期日:平成26年5月26日 12:30~13:10

場所:仙台国際センター(仙台市青葉区)

議事:

- (1) 平成25年度(第118期)事業報告,決算報告
- (2) 平成26年度(第119期)事業計画,収支予算

2. 理事会

平成26年度(第119期)第1回定例理事会

日時:平成26年5月9日(金)13:30~17:00

場所:日本船舶海洋工学会 会議室

出席:理事13名,監事3名,事務局1名

欠席:理事2名

主要議事:

- (1) 平成25年度事業報告および決算報告
- (2) 平成26年度事業計画・予算書の修正
- (3) 内規の修正に関する審議

平成26年度(第119期)第2回定例理事会

日時:平成26年7月25日(金)13:30~17:00

場所:日本船舶海洋工学会 会議室

出席:理事14名,監事3名,事務局1名

欠席:理事1名

主要議事:

- (1) 代議員選挙日程に関する審議
- (2) 船舶海洋工学シリーズの英語版編集の審議
- (3) 細則,内規の修正に関する審議

平成26年度(第119期)第3回定例理事会

日時:平成26年9月19日(金)13:30~17:00

場所:中央電気倶楽部(大阪市)会議室

出席:理事14名,監事2名,事務局1名

欠席:理事1名,監事1名

主要議事:

- (1) 代議員選挙の実施に関する審議
- (2) プロジェクト研究委員会の新設
- (3) 内規の修正に関する審議
- (4) 業務執行状況報告

平成26年度(第119期)第4回定例理事会

日時:平成26年12月5日(金)13:30~17:00

場所:九州大学大学院総合理工学研究院 会議室

出席:理事14名,監事2名,事務局1名

欠席:理事1名,監事1名

主要議事:

- (1) 平成26年度収支中間報告に関する審議
- (2) 細則,内規の修正に関する審議

平成26年度(第119期)第5回定例理事会

日時:平成27年1月23日(金)13:30~17:30

場所:商船三井ビル 会議室(港区虎ノ門2-1-1)

出席:理事14名,監事3名,事務局1名

欠席:理事1名

主要議事:

- (1) 平成27年度事業計画,収支予算案に関する審議
- (2) 内規の修正に関する審議
- (3) 終身会員の推薦
- (4) 講演会における国際化に関する審議

平成26年度(第119期)第6回定例理事会報告

日時:平成27年3月20日(金)13:30~17:30

場所：川崎重工神戸工場 会議室（神戸市中央区）
 出席：理事 15 名，監事 3 名，事務局 1 名
 欠席：なし
 主要議事：

- (1) 平成 27 年度事業計画，収支予算案の修正
- (2) 功労会員の推薦
- (3) 次期役員候補者
- (4) 内規の修正に関する審議
- (5) 学会賞および船舶海洋技術賞の承認
- (6) 業務執行状況報告

【3】会員の異動

1. 会員数推移

平成27年3月31日現在，会員総数は個人会員4,465名，賛助会員148団体，計4,613となった。（表3-1）

表3-1 会員数推移

種 別	前期末 (26年3月 31日)	当期末 (27年3月 31日)	減員	増員	増減
正会員	4,208	4,201	41	34	-7
(内名誉会員)	(38)	(39)	0	1	1
(内功労会員)	(59)	(61)	2	4	2
(内終身会員)	(908)	(936)	31	59	28
(内シニア会員)	(93)	(88)	21	16	-5
学生会員	276	262	114	100	-14
賛助会員 特級	17	17	0	0	0
1 級	9	9	0	0	0
2 級	10	10	0	0	0
3 級	113	112	2	1	-1
個人	2	2	0	0	0
合 計	4,635	4,613	157	135	-22

2. 名誉会員・功労会員の推薦

平成 26 年 5 月 26 日定時総会にて下記のとおり 1 名が名誉会員に，4 名が功労会員に推薦された。

名誉会員： 谷口 友一

功労会員： 藤久保昌彦 安澤 幸隆
 篠田 岳思 古川 芳孝

3. 終身会員の推薦

理事会において下記 59 名の終身会員への推薦が承認された。

高橋 太郎	鳥海 誠	福岡 哲二	末岡 英利
古川 静雄	蔵原 成実	竹原 久雄	黒田 英雄
榎並 守	豊福 正継	松井 敏友	安東 明俊
岸本 衛	山下 寿夫	遠藤 雅右	阿部 孝三
中澤 明男	九田 一久	萩原 俊秀	堀籠 教夫
吉田 靖	新井 信一	百崎 典英	東 哲朗
荒木 進	稲垣 和良	成田 征	北野 公夫
小嶋 良一	西村 成一	笠原 良和	高田美津雄
池淵 哲朗	佐竹 博巳	平吾 匡朗	亀井 前人
寺田 春秋	山下 寛	海野 誠	有持 和茂
井上 欣三	児玉 良明	室津 義定	一色 浩
村上 光功	鹿瀬 博	悦勝 三次	福本 仁
表 正和	櫻井 邦夫	藤原 建美	松尾 晃
久富 宣昭	後田 安治	西田 正人	前田 照明
山田 節三	小川 忠晴	渡辺 逸郎	

【4】委員の委嘱

下記のとおり新たに委員を委嘱した。

(1) 論文審査委員会

審査委員：日夏宗彦，田中進，村井基彦，平田信行，木原一，岡田哲男

査読委員：松岡和彦，神田雅光，真鍋直行，羽根冬希，矢野真一郎，野瀬哲郎

(2) 学会誌編集委員会

濱野哲也，川又伸一，斎藤春夫，吉野ひかり，上田純平，大黒克伸，垣内隆太郎，齋藤直宏，竹田晃史

(3) 情報管理委員会

山口悟

(4) 海洋教育推進委員会

山下周一，木村元，渡邊啓介，竹川正夫，山元康博

(5) 広報委員会

滝田総一郎，田丸 人意，田中太氏，二瓶泰範

(6) 研究企画委員会

日野孝則，岩下英嗣，鈴木克幸，浅山雅也，原英太郎，大沢直樹，近藤学，井上順広，埜克幸，井上俊司，安澤幸隆，林昌奎，国貞泰介，登川康則，濱田邦裕，土井憲治

(7) 研究委員会

P-46 「船内交通装置設計指針の改訂」研究委員会

荒井誠，加藤恒司，中村千春，新 雅善，津上由紀夫，越智宏

【5】代議員選挙

代議員選挙管理委員会（委員長：谷口友一）を設置し，任期満了に伴う日本船舶海洋工学会代議員選挙の結果，平成 27～28 年度の代議員は下記のとおり選出され，平成 26 年 12 月 19 日公示された。

青木 伊知郎	青山 和浩	荒井 誠	安東 潤
有馬 俊朗	有坂 俊一	粟島 裕治	馬場 信弘
土井 康明	藤久保 昌彦	深沢 塔一	古川 芳孝
後藤 浩二	橋本 州史	日野 孝則	穂森 繁弘
池淵 哲朗	今北 明彦	稲田 陽一	井上 俊司
石黒 剛	伊東 章雄	伊藤 博子	岩崎 泰典
岩下 英嗣	影本 浩	梶原 宏之	柏木 正
河部 香	川越 美一	川村 恭己	木戸川充彦
木村 校優	北村 充	北村 徹	小林 一也
小村 淳	松本 光一郎	松本 俊之	三橋 孝司
宮崎 恵子	村井 基彦	村上 彰男	中村 昌彦
並川 俊一郎	西尾 茂	野瀬 幹夫	大庭 亮
奥田 成幸	大沢 直樹	大坪 新一郎	大塚 耕司
佐藤 隆一	柴崎 公太	重見 利幸	新海 信隆
篠田 岳思	新宅 英司	白木原 浩	鈴木 英之
鈴木 克幸	鈴木 和夫	高木 健	高平 智明
高井 通雄	高木 祐介	高野 裕文	竹田 太樹
田村 兼吉	谷澤 克治	戸田 保幸	坪川 毅彦
内田 誠	上田 直樹	上野 道雄	梅田 直哉
宇都 正太郎	山口 悟	大和 裕幸	山崎 哲生
安川 宏紀	安澤 幸隆	吉田 清隆	吉川 孝男

【6】補助金等

当会の諸事業に対する助成として以下の補助金や寄付金を受領した。

(1) 科学研究費補助金

日本学術振興会より 360万円

(2) 業界補助金

1) 一般向け講演会活動費

日本造船工業会より 150万円

2) 世界船舶海洋工学フォーラムの開催支援金

日本海事協会より 400万円

ABS,BV,DNV-GL,LRより	各20万円
(3) 寄付金	
1) 当会の諸事業に対する寄付金	
日本造船工業会より	175万円
日本海事協会より	40万円
その他1団体, 2個人より	計4万1千円

【7】関連団体との協力

- 1) 日本学術会議
日本学術会議が主催する講演会等を共催した。
- 2) 日本工学会
CPD協議会の運用等に関連して日本工学会の事業に協力した。
また、事務研究委員会の活動に参画した。
- 3) 日本造船工業会
造船技術者社会人教育の事業、技術士資格に関わる講習会等で日本造船工業会と連携を図った。
- 4) 海事三学会
日本マリンエンジニアリング学会および日本航海学会との連携を目的として会長懇談会等を行った。また、合同シンポジウムの開催、合同表彰式、技術者支援事業等で連携を図った。
- 5) 機械系関連学協会
機械系学協会会長懇談会等を通じ、関連行事の連携を図った。

【8】規則

- 1) 定例理事会において下記内規の改定を決議した。
 - ・ 会員管理に関する内規
 - ・ 外部資金による調査研究事業の運用に関する内規
 - ・ 職員の定年制に関する規程
 - ・ シップ・オブ・ザ・イヤーの選考に関する内規
 - ・ 船舶海洋技術賞に関する内規
 - ・ 代議員選挙実施内規
 - ・ 研究企画委員会に関する内規
 - ・ 研究委員会に関する内規
 - ・ 研究会に関する内規
 - ・ 役員選出内規
 - ・ 日本船舶海洋工学会奨励賞（乾賞）に関する内規
- 2) 定例理事会において下記内規の制定を決議した。
 - ・ 広報委員会に関する内規
 - ・ 技術倫理委員会に関する規程
 - ・ 論文投稿・査読に関する倫理規程
 - ・ 不正行為の調査及び審査規定
 - ・ 不正行為による会員処分規定
 - ・ 研究委員会ならびに研究会の評価に関する内規
 - ・ 社会貢献賞に関する内規

【9】行政庁への提出

- 1) 平成26年6月26日付で内閣府に事業報告、収支決算書を含む下記を提出した。
 - ・ 平成25年度（第118期）事業報告等に係わる提出書類
- 2) 平成26年10月10日付で内閣府に下記を提出した。
 - ・ 内閣府立入検査に伴う事業報告等の修正提出書
- 3) 平成27年3月30日付で内閣府に下記を提出した。
 - ・ 平成27年度（第120期）事業計画
 - ・ 平成27年度（第120期）収支予算書
 - ・ 平成27年度資金調達及び設備投資の見込に関する書類

【10】支部会合

1. 東部支部

定時総会

期日：平成26年5月16日

場所：日本海事協会東京支部会議室

出席者：33名

運営委員会

委員数：横田健二支部長ほか14名

第1回（平成26年5月16日）

場所：日本海事協会東京支部会議室

主要議事：

- (1) 平成25年度 東部支部事業報告および収支決算報告
- (2) 平成26年度 東部支部事業計画および予算
- (3) 春季講演会の準備状況

第2回（平成26年7月18日）

場所：日本船舶海洋工学会会議室

主要議事：

- (1) 平成27-28年度 代議員選挙の実施について
- (2) 東部支部ワークショップ（運営委員会提案）の企画
- (3) 「海事産業へのお誘い」の実施案について

第3回（平成26年9月12日）

場所：日本船舶海洋工学会会議室

主要議事：

- (1) 平成27-28年度 代議員選挙実施の手順
- (2) 東部支部ワークショップ（運営委員会提案）の準備状況
- (3) 「海事産業へのお誘い」の準備状況

第4回（平成26年11月17日）

場所：日本船舶海洋工学会会議室

主要議事：

- (1) 平成27-28年度 代議員候補者の推薦結果
- (2) 会員資格喪失対象者（2年以上の会費未納者）への対応
- (3) 東部支部ワークショップ（運営委員会提案）の実施案

第5回（平成27年1月16日）

場所：日本船舶海洋工学会会議室

主要議事：

- (1) 次期支部長、支部推薦理事候補および支部監事選出手順
- (2) 平成27年度 東部支部事業計画案・収支予算案(1次案)
- (3) 終身会員の推薦（平成26年度）について

第6回（平成27年3月13日）

場所：日本船舶海洋工学会会議室

主要議事：

- (1) 平成27年度 東部支部事業計画および収支予算(修正案)
- (2) 平成26年度 東部支部会計監査の実施について
- (3) 平成27年度 東部支部定時総会の開催日程

東部支部会務委員会

委員数：鈴木克幸委員長ほか14名

支部長を補佐し、支部の運営に関する諸事項を実施した。

第1回（平成26年4月30日）

第2回（平成26年7月11日）

第3回（平成26年9月5日）

第4回（平成26年11月7日）

第5回（平成27年1月9日）

第6回（平成27年3月6日）

2. 関西支部

定時総会

期日：平成26年5月23日

場所：三菱重工神戸造船所

出席者：32名

商議員会

委員数：池田支部長以下54名

期日：平成27年1月15日

場所：神戸クリスタルタワー 出席者：20名

主要議事：

- (1) 平成 26 年度事業進捗状況
- (2) 平成 27 年度事業計画(案)・予算(案)
- (3) 支部長賞候補推薦のお願い

運営委員会

委員数：池田支部長以下 17 名

第 1 回（平成 26 年 4 月 11 日）

場所：中央電気倶楽部 出席者：18 名

主要議事：

- (1) 平成 26 年度支部定時総会
- (2) 支部長賞
- (3) 平成 27 年春季講演会計画

第 2 回（平成 26 年 5 月 23 日）

場所：三菱重工業神戸造船所 出席者：21 名

主要議事：

- (1) 平成 27 年春季講演会計画
- (2) 支部長賞内規

第 3 回（平成 26 年 7 月 18 日）

場所：中央電気倶楽部 出席者：17 名

主要議事：

- (1) 支部長賞内規改定
- (2) 支部選挙及び運営委員選出に関する手順書
- (3) 海岸清掃
- (4) シンポジウム

第 4 回（平成 26 年 9 月 17 日）

場所：中央電気倶楽部 出席者：19 名

主要議事：

- (1) セミナー・講習会
- (2) シンポジウム
- (3) 新年特別講演会

第 5 回（平成 26 年 10 月 31 日）

場所：中央電気倶楽部 出席者：14 名

主要議事：

- (1) 平成 27/28 年度代議員候補者推薦について
- (2) 支部長候補者選考委員会
- (3) 平成 26 年度中間報告
- (4) シンポジウム
- (5) 海事産業説明会
- (6) 新年特別講演会

第 6 回（平成 26 年 12 月 10 日）

場所：中央電気倶楽部 出席者：18 名

主要議事：

- (1) 平成 27 年度事業計画案・予算案
- (2) 第 2 回シンポジウム企画案
- (3) 第 1 回シンポジウム案内
- (4) 新年特別講演会
- (5) 見学会
- (6) 平成 27 年春季講演会

第 7 回（平成 26 年 1 月 15 日）

場所：神戸クリスタルタワー 出席者：18 名

主要議事：

- (1) 平成 27 年度事業計画(案)・予算(案)
- (2) 次期支部長・監事および支部推薦理事候補の推薦
- (3) 見学会
- (4) シンポジウム

第 8 回（平成 27 年 3 月 9 日）

場所：中央電気倶楽部 出席者：18 名

主要議事：

- (1) 平成 27 年度事業計画案・予算案

(2) 支部長賞候補推薦状況

(3) 平成 27 年度業務日程・業務所掌

(4) 平成 27 年度若手技術者研修会

(5) 見学会

会務委員会

委員数：箕浦幹事以下 14 名

支部長を補佐し、支部の運営に関する諸事項を実施した。

第 1 回（平成 26 年 4 月 11 日）

第 2 回（平成 26 年 5 月 23 日）

第 3 回（平成 26 年 7 月 18 日）

第 4 回（平成 26 年 9 月 17 日）

第 5 回（平成 26 年 10 月 31 日）

第 6 回（平成 26 年 12 月 10 日）

第 7 回（平成 27 年 1 月 15 日）

第 8 回（平成 27 年 3 月 9 日）

授賞審査委員会

委員数：深沢委員長以下 7 名

期日：平成 26 年 4 月 11 日

場所：中央電気倶楽部 出席者：5 名

3. 西部支部

定時総会

期日：平成 26 年 5 月 14 日

場所：JR 博多シティ 9F 大会議室

議事：

- (1) 支部役員の承認
- (2) 第 9 期（平成 25 年度）事業報告および会計報告
- (3) 第 10 期（平成 26 年度）事業計画および予算
- (4) 授与式

西部支部運営委員会

委員数：経塚雄策支部長ほか 24 名

第 1 回（平成 26 年 5 月 14 日）

場所：JR 博多シティ 9F 大会議室

主要議事：

(1) 平成 26 年度予算・事業計画について

第 2 回（平成 26 年 8 月 6 日）

場所：アクロス福岡 会議室

主要議事：

(1) 平成 26 年度事業計画の詳細について

(2) 講演会実行委員会の体制について

第 3 回（平成 26 年 11 月 5 日）

場所：JR 博多シティ 9F 大会議室

主要議事：

(1) 平成 26 年度事業報告（含状況報告・費用報告）

(2) 平成 27 年度事業計画案

第 4 回（平成 27 年 1 月 13 日）

場所：リファレンス 駅東ビル 5F 会議室

主要議事：

(1) 平成 27 年度事業計画案

(2) 平成 26 年秋季講演会開催報告

(3) 次期役員の選出について

第 5 回（平成 27 年 3 月 27 日）

場所：リファレンス 駅東ビル 5F 会議室

主要議事：

(1) 平成 26 年度事業報告、決算報告

(2) 平成 27 年度西部支部事業計画および予算案

(3) 次期支部役員について

(4) 西部支部内規修正案について